



「新町西再開発は白紙撤回」を ホールは文化センターを耐震 リニューアルで長持ちさせ、旧動物園跡地に建設すべき

六月議会で住民投票条例案が否決されました。多くの市民から「新町西再開発の白紙撤回を」求める声が、たくさん寄せられています。それは、この事業が、「市民合意を踏み破り」、「市民の生活権や営業権を奪つて」まで進める「ムダな大型公共事業」だからです。

いろいろと問題が多い新町西再開発事業ですが、今号と次号で、とりわけ大きな問題となっている二つの点を述べておきます。今号は、まず「ホール」問題。次号は「市民の生活権や営業権を強制的に奪つ」問題です。

他都市では耐震・リニューアルで長持ちさせているのに

「老朽化した文化センターは 壊す以外ない」と決めつけて推進

徳島市の文化センター（千五百五十席）は、建築してから約五十年経っていますが、全国には「文化センターと同程度の規模」で「文化センターより古い」ホールが十五施設あり、活用されています。

この内、五ホールが耐震・リニューアルされ（または工事進行中）しているんですが、私は、この五ホールのうち四ホールを視察してきました。いずれも、プロの診断士が診断し耐震化。そしてリニューアルし、活用しています。

今治市・新居浜市・福知山市
音響、舞台、楽屋、客席、
トイレ等をリニューアル

リニューアルした五ホールのうち

二ホールがお隣の愛媛県 今治市と新居浜市です。最大の特徴は両方とも、楽屋をホールの外に増築したことです。

京都府福知山市のホールは、五億六千五百万円かけて改修されています。



新装の福知山ホール音響板

舞台や音響が一新され、ピアノもスタンウェイを購入。椅子も「ゆったり座れる」よう、幅広く改装されていました。

リニューアルの重点は「音響」「舞台」「楽屋」「客席」「トイレ」等五十年以上も前に建てられたホールでも、リニューアルすれば、

立派に生まれ変わっています。

「倒壊する…」米子市ホールを

耐震・リニューアル工事

「今後二十年は使える」と

五ホールの一つ 鳥取県米子市のホールですが、プロの日本建築総合試験所が七ヶ月間かけて診断し、「大地震で倒壊する危険性が高い」という結果を出しました。しかし、「耐震・リニューアルすれば、耐用年数が二十年程延びる」と



米子市のホール

報告書をまとめています。

そこで米子市は、今年一月から、十三億七千万円かけて耐震・リニューアルの工事にかかっています。

徳島市の文化センター！

プロの診断も受けず

「リニューアルは困難だ」と

徳島市の文化センターですが、筑後約五十年も経過し、老朽化していて、



このままでは使えないのは当たり前です。

しかし、他都市のように、「音響」「舞台」「楽屋」「客席」「トイレ」等を



徳島市文化センター

リニューアルし耐震化すれば、文化センターも生まれ変わる そんな検討も行わないで、「リニューアルは困難」だと決めつけ、壊す以外にない」として、新町西再開発のホール建設を強引に推進する こうした「やり方」に、多くの市民の方々が「怒りの声」を挙げています。

百二十五億円のホール建設が 十億円程の耐震リニューアルが 市民に問わないで、強引に推進

新町西再開発のホール建設費は百二十五億円 一方、文化センターの耐震・リニューアルは十億円程 どちらを選択するのか 一度も市民に問わないで、強引に推進しているのが原市政です。こうした強引な「やり方」に、多くの市民から「新町西再開発の白紙撤回」を求める声が挙がっていますが、当たり前前です。

「音芸ホールは旧動物園跡地に建設する」という

最終報告書を踏み破って、

強引に推進する新町西再開発のホール建設

「音芸ホールは旧動物園跡地に建設する」 徳島市が設置した市民会議が、市長に初当選して間もない原氏に提出した『最終報告書』 十四年もかけて音芸ホールを審議した「結論」です。

原市長の独断で

新町西再開発の音芸ホールに

ところが 議会にも諮らず、ある



旧動物園跡地

日突然、新聞のトップに「音芸ホールは新町西再開発に」という記事が掲載され、議会が騒然となりました。二〇〇五年十一月一日、本会議の開会日の出来事です。初当選し

て間もない原市長が、最終報告書を踏み破って、独断で「新町西再開発のホール建設」に変更した 市民や議会を踏みつけにする原市政の「象徴的なやり方」です。

強引な新町西再開発への

市民の怒りが

市長選挙の得票数に



眉山からの徳島市内風景

市長の独断で「新町西再開発のホール建設」に変更した 市民や議会を踏みつけにする原市政の「やり方」に、「大きな怒りの声」が挙がっていますが、それを象徴しているのが、市長選挙での「原氏の得票数」です。

原氏が初当選したときは、旧動物園跡地に音芸ホールを建設する市民会議が開かれている最中で、原氏も「県市協調でホール建設を」公約し、約五万六千票を獲得しました。ところが、市長の独断でスタートさせた「新町西再開発の音芸ホール」を公約した二回目の選挙では、一万四千票も激減させ、約四万二千票しかありませんでした。そして、再び「新町西再開発の音

芸ホール」を公約した三回目の選挙（一年四ヶ月前）では、更に八千票も激減させ、わずか三万四千票しかありませんでした。ここまで減ると、もう「市長のテイをなしていない」 ところで、市民の支持を失っています。



「強引な新町西再開発推進」に対する、「市民の怒りの現れ」です。

音芸ホールは旧動物園跡地に 当面は文化センターを 耐震リニューアルして存続を

文化センターを、他都市のように耐震・リニューアルすれば、ホールを二十年程長持ちさせられます。その費用は、新町西再開発ホール建設の十分の一程度 財政（市民の税金）を節約すべきです。

また、「旧動物園跡地に音芸ホールを建設するための積立金」が十六億円程あります。これは小池市政時代に積み立てられたものですが、原市政になつてからは積み立てが停止されています。これを復活させ、積立金を元手に そして県にも協調を呼びかけて、未来に誇れる立派なホールを旧動物園跡地に建設するためには、新町西再開発を白紙撤回する この道しかありません。